

## 1 自己評価

自己評価及び考察は、別紙（学校だより）のとおり

## 2 学校関係者評価

2月7日（火）に開催した運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 言葉遣いは昔の方が悪かったと思う。昔と比べれば今はよくなっていると感じるが、言葉遣い（きれいな言葉で話している）の児童と保護者の評価のギャップが大きい。言葉遣いは学校内で問題になっているのか。言葉遣いの指導を厳しくしすぎるあまり、逆に自分の思いを伝えられなくなったり、自己主張ができなくなったりすることはないか。
- ・ 保護者の意見は言葉遣いが多い。いい子でいて欲しい願望が強い。実際すごくいい子が多い。人間性が重視されている時代。子供たちはどこで息抜きしているのだろう。自主的に優しい言葉を使うと子供たちから意見がでて、実際に意識が上がっている。とてもいいこと。強制されるのではなく、やれることからやろうというところが成果につながっている。
- ・ 子供たちの自主的な活動の中で、きれいな言葉やあいさつを意識しようということが出ているのが大変すばらしい。今後も続けてほしい。
- ・ 読書や読み聞かせについての保護者の意見があったが、学校はちゃんとやっている。親が知らない、伝わってないだけ。また、言葉遣いについても、子供はしっかり区別ができている。いい意味でも悪い意味でも上手にわきまえて遣い分けていると思う。
- ・ 協働センターに来る南小の児童は、明るく元気で、あいさつもしっかりできている印象。言葉遣いが悪いイメージはない。ギャップが大きいのは保護者の期待が高いのか、子供の評価が甘いのか、のどちらかだと思う。児童の目標が低いのではないか。
- ・ 親のジャッジの仕方、教員とのズレ等があるなら、アンケートの聞き方を変えてみたり、評価の視点を与えたりするのも手立ての一つだと思う。

## 3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ 今年度のような子供たちからの自主的な活動を賞賛し、あいさつや言葉遣いについて運営委員会（児童会）が中心となり、児童全体に広がる自主的な活動になるように支援していく。
- ・ あいさつ活動や読書の様子を学校だより、学年だより等で知らせることで、あいさつや読書活動へ学校の取組みを保護者へ伝える。